

「実践記録、教材・教員の部」 入選者講評一覧（中学校）

No.	作品名	教科・領域等	学校名	応募者名	作品	作品の説明	講評
1	47都道府県・郷土の味	技術・家庭	土岐市立泉中	毛利 知美		生徒が調べた47都道府県の郷土料理のレシピカードを立体日本地図に掲示した。カードが取り外したり、増やしたりすることができるようにした。郷土料理の導入教材として、地域の味の特徴が分かるようにお菓子のパッケージを利用して日本地図を作成した。	生徒が主体的に調査することで、教材に関与しており、友達調べたところにも自ずと興味を湧く教材である。また、家庭科で大切にしている「文化として食」の観点から、郷土料理そのものだけでなく、「お菓子のパッケージ」からも食文化を大切にしている地域の人々の想いを感じることができる。
2	外国人生徒が自立した学習をするための支援	日本語指導	土岐市立泉中	岡島 美沙子		・授業初めの5分間、漢字の練習を何度でもできるように漢字単語帳を作成したりした。 ・ルビ付きで自帰しの解答がある社会のワークをロイロ・ノート上に作成した。どちらも授業中に使用するが、家庭でも自立した学習ができるようになっている。	授業の最初の5分間を使って、教科学習に必要な漢字の読み・書きを継続的に指導するための教材である。また、ICTを効果的に用いて、ワークにルビを振り、家庭での学習を支援している教材である。当該生徒が自立した学習ができることを願う作成者の思いのこもった教材である。
3	ご縁をつなごう	特別支援 (自立活動)	恵那市立恵那東中	遠山 詩織		「恵那農業高等学校の方とご縁をつなぎ、人との関わり方を考えながら、共に活動しよう。」という目標で、活動の見通しをイラストで示した。また、学級の中で仲間と関わり「ご縁が繋がった」らカードを貼る活動を取り入れ、一目で成果がわかるようにした。	単元全体の活動マップが作られており、始まりから出口まで、生徒が見通しをもって取り組むことができる教材になっている。人との関わり方のスキルを学ぶために「ご縁」というキーワードを使い、この単元だけでなく、よいこと見つけなど、日常生活まで活動を拡げられている。